

【22_115技術系メルマガ】『収縮⇒発散』の役割

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

トレードは確率論的思考で行うものであるという前提を考えると、勝率100%を保証できる手法がない以上

如何に『型』に沿って運用を行う事が重要であるか

このメルマガを読み続けてくれている人は、大分理解を深めてくれているのではないかと思います。

そこで今回は、改めて僕のトレードの『型』における、『エントリーの条件』として位置付けているセットアップについて

その構造と役割を言語化していきたいと思います。

□
■ なぜMAの『収縮⇒発散』に注目するのか

僕がエントリーのセットアップを説明する際に、ほぼ必ずと言っても良いくらい出てくるキーワードが『収縮⇒発散』ですが

そもそもなぜ、これに注目する必要があるのでしょうか？

これは、値動きとチャートにおける波形の性質に基づいて考える必要があります。

▼収縮・発散のメカニズム(画像)▼

https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/others/220425_01.png

この図も、結構使い古された模式図(笑)ですが、僕の中ではいつでも原点になっている重要な概念です。

結局、大きな値動きというのは起こってからずっと継続されるものではなく

ある程度伸びた後は一服してまた停滞する、若しくは反転方向へ向かう
ということを繰り返して、波形という物を形成します。

そう考えると、僕らトレードをする立場としては『大きく動く前』の挙動を捉えて
なるべく有利にポジションを展開したいと考えますよね。

その時に必要となる考え方というのが、『短期足のMA収縮』というわけです。

勿論、そこから大きく動く方向(『目線』)を決めるには、上位の時間足の環境を捉えるという
前提条件も必要になるわけですが

この両者が噛み合ったときのトレードというのが一番エッジの効く(優位性のある)ポイントである
ということです。

┌
└─ 収縮したMAは『いつ発散するのか?』を把握するのが③波理論

ところが、そこで次に問題となるのは、その収縮したMAが『いつ発散するのか?』ですよ。

もちろん、それは『MAの収縮』や揉み合いの動きをじーっと見ているだけではわかりません。

ですが、大きく動き出すときに『よく見る動き』に注目すれば、動き出しの初動を捕まえられる確率
は格段に向上します。
(あくまで、確実ではない点を理解しておくのが大事)

その武器に用いているのが、『3波理論』です。

▼『3波理論』の基本的概念図▼

https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/others/220425_02.png

これの元の概念となる原理は、お察しの人も多いと思いますが エリオット波動 です。

ですが、僕が『実戦』として用いているのは『3波まで』で、4～5波やその後の調整波とされる「A～C波」というのはあまり意識していません。

なんなら、あまり原理もよくわかっていません(笑)

僕にとって重要なのは、『エントリーのセットアップ』に規則性を持たせる事であり

また想定が外れた時の損切りを『常に“一定の判断基準”で行えるようにする事』です。

これさえ実践していれば、トレードにおける「迷い」はかなり少なくなり

いつも決まったサイコロを振るような感じで無心に近い状態でトレードできるようになっているはずです。

テクニック自体は複雑なものではないので、検証量次第で誰でも身につけることはできます。

是非前向きに取り組んでみてくださいね。